

巻 頭 言

論文にすることのすすめ —若手研究者の皆さんへ—

杏林大学保健学部教授 丘 島 晴 雄

杏林医学会雑誌は 2007 年度からいわゆる紙媒体の雑誌から電子ジャーナル化され、従来にも増して多岐にわたる興味深い論文が掲載されています。しかしながら、近年、様々な理由があると思われませんが、杏林医学会雑誌に投稿する教職員、大学院生の減少が目立つようになっていきます。

日本全体の学術雑誌論文数も 2005 年あたりから減少に転じて来ており、この原因の一つに雑誌インパクトファクター (JIF) 至上主義が挙げられています。雑誌の評価指標として考案された JIF を、雑誌に掲載される個々の論文やそれらを執筆した個人の業績評価に用いることが誤りであることは、ずっと以前から指摘されてきたにもかかわらず、多用されています。このことが、研究者が論文の投稿先に少しでも高い JIF の雑誌を選ぶ傾向を促進してきています。すなわち、高い JIF の雑誌に論文を掲載しないと研究費が取れないため、低い JIF の雑誌には投稿しない傾向になります。そうすると未発表のデータが沢山たまり、論文数が減少します。

研究の目的は、ある変化を引き起こす原理を明らかにすること、ものごとの仕組みを解き明かすこと、何らかの法則を発見すること等、人によって様々です。要は、私たちが欲しいと願っている知識と技術を得ることが目的です。新しい知識と技術を得たとき、それらを自分で抱えず、他者に伝え、広く共有することにより、科学技術の発展がもたらされます。また、学会発表だけを行い、論文にしていないと人に先を越され、後で悔やむことになりかねません。つまり、新知見を論文として発表することにより研究は完結いたします。

初学者に対して次のことがよく言われます。日本語で論文が書けない人は英語で論文は書けません、まず、日本語で論文を書くことが必要です。文字にすると論理が不完全な箇所や事実が曖昧な点が見えてきます。若手研究者の皆さんにとって、杏林医学会雑誌への投稿は論文執筆の登竜門となり、礎となります。是非、杏林医学会雑誌に投稿することをおすすめいたします。

杏林医学会では、特に若い世代の会員の研究活動を奨励するため、杏林医学会賞や杏林医学会研究奨励賞等を設けていますので奮って応募願います。